

2015年4月19日礼拝メッセージ

タイトル：ファースト・ラブ

聖書箇所：黙示録2章1-7節／マタイ12：22-27

高校に入った当時、同じ中学からきている同級生はおらず、多少の話をする人はいましたが、一緒に放課に遊ぶという友達も別におらず、一人で本を読んでいた。その時に読んでいたのが「風と共に去りぬ」でした。初恋の相手アシュレイにふられ、腹いせに友人のボーイフレンドを奪い、結婚。その夫は南北戦争で戦死、自分は生き延びるために奮闘するも、親の借金を返すために妹の婚約者だった実業家と結婚、その2番目の夫も町のいざこざで殺されると、今度は金持ちのレット・バトラーと結婚、彼がいい夫になろうと努力したのに自分から彼を拒否、一人になるも、自分には帰る故郷、タラがあるということでまた立ち上がる。聖書以外ではアメリカで最も読まれた本と言われた「風と共に去りぬ」でしたが、主人公のスカーレットはかなり、わがままな女性で、こんな人がそばにいたら大変です。ただし彼女に同情すべき点があるとすれば、初恋の人アシュレイにふられたことです。初めて人を好きになった、というその感情は、人に大きな影響を及ぼすのかも知れません。

今日読んだ聖書の箇所には「初めの愛」という言葉が出てきます。英語では **First Love** すなわち、初恋です。初恋を成就させ、結婚し、幸せな家庭を築く方もいるでしょう。しかし、たいていの初恋は、いろいろな形で過ぎ去って、ちょっとほろ苦い思い出として記憶の中にとどめておくだけになることが多いのではないのでしょうか。

しかし、主が言われる「初めの愛」には、初恋的な要素とそれをもつ深めた神の愛の要素、その両方が含まれているのではないのでしょうか。

快楽低減の法則という言葉があります。どんなにすばらしい物も、体験も、知識や知恵も、繰り返してそれを使っていくうちにだんだんつまらなくなってくる、というものです。麻薬はそのいい例で、最初は刺激的でも慢性化し、もっと強い薬、もっと効く呑み方、を人に求めさせ、その人を廃人化してしまいます。新商品、新しい映画、ドラマ、アトラクション、趣味、そして、愛人、資産投機、財産への執着とエスカレートしていきます。たいていは途中で挫折して残念でした、となりますが、時には挫折しない人もいました。たとえばソロモン王です。知恵も容姿も権力も女性もすべて手に入れ、誰にも負けませんでした。でも、造り主には負けました。というか、つくり主が言わせました。晩年の書物にはソロモン自身が「空の空。すべては空。」と書いたのです。皆さんもそんな経験がおありなのではないのでしょうか。人の心の中は主（とその愛）以外は何によっても満たされません。そして、多くのものに熱中すると体が疲れるのです。

では私たちの人生とは何でしょうか。毎日同じことを繰り返し、ただ年を重ね、死んでいく、それだけなのでしょう。確かにそれだけです。ただし、その意味は、本当に同じことの繰り返しだったとしても、それを心から喜び、満足できる生き方ができる、いや、もっとひどい状態、病気や貧困、牢獄の中にあっただとしても喜び、満足できるという意味です。どうしたらできるのですか。その秘訣は「愛」です。「愛」があるから、できるのです。

私は時々、教会外で結婚式をします。すると台本をくれます。「お二人は永遠の愛を誓われました！パチパチパチ。」というやつです。これが非常に苦手です。まず私が永遠の愛を誓え、といわれたら「できません。」というしかない人間ですし、聖書は結婚が「死が二人を分かちまで」のことで、それ以降は「嫁ぐことも娶ることもない」と言っているのですから、なぜか「永遠の愛」と聞くとむなしく聞こえてしまうんですね。でも聖書にはいつまでも残るものは信仰と希望と愛、とあるので否定することはできません。永遠の愛らしきものがどこかにあるというのです。ではどうしたらその永遠の愛を体験できるのでしょうか？

つらつらとそんなことを考えてながら、今日の黙示録の箇所に出会いました。ここには私たちの日々の生活が描かれています。2節の行いと労苦と忍耐です。すなわち私たちの生活や人間関係そのものかもしれません。エペソの人たちは一生懸命生き、主のためにやっていたのです。もちろん主はそのことをちゃんと評価してくださっています。

でもそれだけではないよ、もっと大切なことがあるよ。「初めの愛にもどりなさい」と主は私たちに教えてくださっているのではないのでしょうか。エペソの人たちの努力も実績も私たちの自信や業績も、この「初めの愛」なくしては、見栄えの良い肉になってしまうのではないのでしょうか。ではその「初めの愛」とは何でしょうか。十字架ですか。確かに。しかし、このすばらしい十字架も過去の事実です。「初めの愛」とはその十字架から始った主の愛のしるしを、日々の生活の中、発見し、拾い上げていくことだと思うのです。聖書のみ言葉そのものからあなたが発見するさまざまな主の愛、これこそが新鮮な愛＝「初めの愛」となり、私たちの心に響くのです。何という醍醐味でしょうか！

マタイの12章にはイエスに癒された男の話が出てきます。彼はいやされて当然喜びました。しかし、そこにパリサイ人がやってきて、その癒されたことが悪であるかのように言いました。男はおそらく反論できず、小さくなっていました。しかしそこでイエスは敢然と反論したのです。この男のためのいわば「愛の反論」です。もし、男の立場ならどんなにうれしかったでしょうか。イエスはそういう人たちの味方でした。そしてもちろん、私たちの味方でもあるのです。

あなたが罪に押しつぶされそうになったとき、イエスは「ちょっと待ってくださいよ。」と

あなたを訴えるものに反論してくださるのです。「愛の反論」です。もちろんこの反論には根拠があります。歴史上の事実としての十字架と復活です。なんと感謝なことでしょうか。

最後に主はエペソの教会を高く評価したと言いたいです。そして主は「初めの愛にもどきなさい、と言わずに、初めの行いをしなさい、と言いました。これは悔い改めてあなたが心機一転、私を愛しなさい、ではなく、「私は今もあなたを愛している。どうか思い出してほしい」、という主の心に答えて、主の愛を思い出す、発見するということなのでないでしょうか。わたしたち一人ひとりがこんな宝探しの冒険に召されていることを心から感謝しましょう。